



## 週1~2日8000歩、死亡リスク低下

8000歩以上のウォーキングを週1~2日続けた結果、10年後の死亡リスクが大きく低下するという研究結果を、京都大と米カリフォルニア大学サンゼルス校のチームがまとめた。歩く頻度や歩数を増やすことで効果はほぼ同じといい、時間や体力に余裕のある日に歩くだけで健康への好影響が期待できるとしている。論文が国際医学誌に掲載された。

チームは米国の健康調査データを基に、20歳以上の男女3101人(平均50.5歳)の歩数や年齢、性別、病歴などと、10年後に心筋梗塞や脳梗塞などで死亡するリスクを解析した。

その結果、1日8000歩以上を週1日も歩かない人に比べ、週1~2日歩く人の10年後の死亡リスクは14.9%低く、週3~7日歩く人で低下した死亡リスク(16.5%)と、ほぼ同じだった。

北岡裕章・高知大教授(老年病・循環器内科)の話「歩数と健康の関係に科学的な根拠を与えるとともに、福岡市内で活動している「ASKAクティビシニア交流会」(西村安弘代表)の招

15日の総会で講演を行

「シニアの認知とペ

ンチヤーのエネルギー

を結ぶ」——をスローガンに、福岡市内で活動している「ASKAクティビシニア交流会」(西村安弘代表)の招

19日、春日市のクロ

19日、春日市のクロ

講演した。

寿命化が進み、寝たき

りにかかるリスクを解説した。

ASKAの会員は、日本は長

生きるためには、老

化を予防し健康寿命を

延ばすことが重要です

——と述べた。

40代から生活改善を

90歳医師の原さんが講演

90歳医師の原さん

が、何もしないと老化

への挑戦」。元気で長

生きるために、老

化を予防し健康寿命を

延ばすことが重要です

——と述べた。

40代から生活改善を

90歳医師の原さん

が、何もしないと老化

への挑戦」。元気で長

生きるために、老

化を予防し健康寿命を

延ばすことが重要です

——と述べた。



